

第16回「議員と語り合い」報告書

産業建設常任委員会（No.1）

開催日	平成27年8月18日（火） 午後6時00分 ～ 7時30分		
開催場所	霧島市議会 第3・4委員会室		
団体名	国分園芸振興会	参加人員	11人 (男11人：女0人)
出席議員	下深迫 孝二、 前島 広紀、 木野田 誠、 厚地 覺、 新橋 実、 中馬 幹雄、 岡村 一二三		
役割分担	委員長（ 下深迫孝二 ） 副委員長（ 前島広紀 ） 記録者（ 中馬幹雄 ）		
テーマ及び具 体的な内容	・高齢化のなか、担い手の確保対策 ・機械化体系に伴う助成対策		
感想	各種作物グループの代表が出席し、若い専業農家が頼もしく思えた。 農地所有者の高齢化により、特に水田の管理を受けて耕作面積が年々増加し苦労している。また 機械導入に経費がかかっているようだ。		

◆は参加者の質問・要望 ◇は議員の回答

<意見交換会での主な意見等>

◆茶師が高齢となり、いなくなったため、長年の茶業経営を止めて園芸を始めたが、機械導入に費用がかかる。何か良い知恵はないか。

◆農大の一年生に将来の希望を聞いたところ、本市の2人がトマト経営を希望していた。以前、公社を立ち上げる計画があったが色々な問題で結果的には頓挫した。国分・隼人地区に10ha位のハウス団地を作り、新規就農希望者の研修の場を提供してもらいたい。そこで若い後継者が経験を積まなければ農業経営は1年やそこらではやっていけない。若者や新規就農者の育成には必要な事である。今まで、新規就農しても経験不足で経営が成り立たず、結局他の仕事に就職した若者を多数見てきた。今後はますます高齢化が進み農地は余ってくると思う。現在耕作している農家は、面積的にも限界かと思う。だからこそ長期的な視野で新規就農者育成の手段を講じていかなければいけない。

◇市内にはそれぞれの作物を専門的に経営している農家が多いが、後継者育成のために研修生受入れ制度をつくれれば手っ取り早く、研修生を受入れる農家に対する施策を講じていけば良いのではないか。新規就農補助事業もあるので、これらも利用したらどうか。

◆色々な補助事業があるが、合併後、補助率が低くなったように思う。合併前は、自己負担は1/3だったが、合併後は2/3になって利用率が非常に悪くなったようだ。特に、トラクター購入は高額なため、市独自の補助制度を検討してもらいたい。

◇合併前は各市町が一部補助していたが、合併後は出していない。部会として活用するのであれば、降灰対策事業が一番補助率がよい。市独自の補助制度はなかなか難しい。

◆息子（37歳）が後継者として研修を行っている。研修費として年間150万円の補助金があるが、補助金だけでは生活ができず私が援助しているのが現状である。そこで、夫婦が研修生になった場合は、今年からそれぞれに補助金が出るようになった。

◆農大生の場合も申請すれば研修費が出る。しかし、新規就農しなければ返納することになり、農地を本人名義にしなければならない制約もある。

◆木原地区には水がなく、今までも行政に何回となく要望しているが回答すらない。野菜の栽培には水が多量に必要であり、上水道を引いているため水道代もばかにならない。ぜひ行政の力でボーリングして水の供給をしてほしい。水があれば上場地区特有の野菜を今以上に栽培できると考える。

◇畑灌の整備が欲しいということか。

◆そんな大げさなものではない。木原にはダムを作るような川もない。

◇上水道の配管はどのくらいか。

◆本管は75mmで引き込みは15~20mm。3連のハウスに一晩中流しても間に合わないこともある。

◇福山地区でも同じような水不足対策として、ボーリングをしてゴボウ農家に配水している。

◆上水道の場合は、所有地にしかメーターを設置できず、200m位自費で配管しなければならず、相当の工事費がかかる。郡田川の梅木からポンプアップを相談したが行政は動かない。

◆小村新田に揚水ポンプを設置できないか。大雨時は必ず水田が冠水する。水門内側にあるごみ受けの格子柵に葦等が引っかかり排水が悪くなることが多い。

◇水戸川の揚水ポンプ設置は何回となく一般質問等で依頼しているが、未だ実現していない。引き続き依頼していく。

◆冠水の状況を撮影しているので、必要な時はいつでも言ってほしい。

◆用水路にポリ袋や大人のオムツまでもが流れてくる。また犬の糞も道路脇に散らばっているのが現状である。これらの問題に対する市民のモラル向上を啓発してほしい。

◇10年後の水田はどうなっていると思うか。

◆上場地域の水田は、高齢化が進み耕作する人がいなくなり、水田としての形態はなくなり荒地になるに思う。下場でも後継者を育てない限り、現在の耕作者は手一杯の状態なので、不耕作地が増えていくと思う。

◇中山間地域等直接支払制度もあと4年間である。その後どうなるかが問題となるのではないか。牧園で実施している「いざなぎ」のような組織を作って、水田を一括で管理する方策を今考えなければ、その時になってからでは遅いと思う。

◆地下灌漑事業のテスト事業を広瀬地区で実施してもらえれば、喜んで参加し畑作栽培をしてみたい。

◇開発施工者と打ち合わせをして連絡する。

◇下場地域の農家で中山間地域まで出かけて耕作してみたいという方はいないか。

◆以前、須子原台地の畑を相談したが、賃借料が高くて断念した。私は年齢的に無理だが後継者は、水田地帯で作付けのできない作物を春山か須子原台地での栽培を考えている。

◆今回、お茶から園芸に変更したが、農機具の機種変更が大変だった。機械銀行に農機具の充実をしてほしい。高齢になってからの導入は大変だ。行政も機械銀行の充実を図ってほしい。